総務大臣訓示

(令和6年4月1日(月) 令和6年度総務省入省式)

本日、新たに総務省職員となられた128名の皆さん、総務省を選択してくださったこと、私からもお礼申し上げます。ありがとうございます。入省本当におめでとうございます。心から歓迎いたします。

皆さんがこれから携わる公の仕事には、二つの「せいとう性」が必要です。

一つは「正しく当てる」という字を書く正当性です。これは道理に合っていることです。政策を皆さんが企画立案するにあたっては、国民・国家に資するのか、公正か、効果的か効率的か、過去の経緯も踏まえて適切か、将来へどんな影響を及ぼすのか、が問われます。政策が論理的に正しいのかという正当性の確保が、官僚として皆さんがこれから担う使命になります。

もう一つは「正しく統べる」正統性です。政治に決定権が認められる根拠です。民主主義の我が国において、選挙に基づいて政治に携わる私たちが担わせていただきます。

二つの「せいとう性」を両立させるために、官僚の皆さんと政治家が協力して働かなくてはなりません。それ故、今日、政治家の私が皆さんに挨拶をさせていただいております。

政府の使命は国民の命と暮らしを守ること、明日へ希望を届けること、そのために国の力を育むことにあります。総務省はそのすべての根幹を担っています。元旦に能登半島で地震が起きてしまいました。国民の命を守るため、直ちに消防庁から緊急消防援助隊を送りました。情報を確保するために通信の復旧には官民連携して対応しました。国民の暮らしを最前線で守っていただいているのは自治体です。その行財政を支えるのが総務省であり、被災地へ応援の職員を派遣し、財政面の支援を行いました。必要な情報を届ける放送や人々を繋ぐ郵便の復旧も事業者の方と協力して進めております。総務省は本当に国民の生活と希望の根幹を担っていると改めて私自身も実感したところですが、これから復興に向けて被災者の方々に寄り添って希望を届けられるように皆さんと力を合わせて参りましょう。

正しく統べる、統治をする「正統性」を確保する政治と選挙の制度の所管も総務省です。人々の暮らしを守り、国力を伸ばすための我が国の目下の課題は経済の好循環で総務省は税制などで後押ししています。今、日本も世界も経済も社会も新たなステージに直面しており、新たな挑戦が大切です、そのために自らの現在地を測る統計やあるべき方向性を探る行政評価が、目標達成の道筋を示してくれます。これから国の力を左右するデジタル分野も総務省です。世界をリードできる技術開発の面でも、広島 AI プロセスを始めルール作りの面でも、健全なネットの情報空間を確保する施策の面でも世界を主導していく役割を総務省が担っていきます。

変革のスピードが速くなっている現代だからこそ、次の時代を担う若い皆さんに、大いに期待しており、皆さんの感覚や意見をどんどん取り入れていきたいと思っております。総務省は、皆さんの声を直接聞く仕組みを作りました。皆さんの声が響き、やりがいを感じられ、皆さんの仕事が日本のためになり、自分にとって楽しいものとなるような組織を目指します。

皆さんの活躍をお待ちしております。重ねて入省を心から歓迎し、私の挨拶とします。

皆さんどうぞよろしくお願いいたします。